

# 胎児環境班議事録

## 昭和51年度胎児環境研究班総会

本年度は交付金の交付が遅れたため、各班（分科会）とも、第1回分科会の開催が、一部を除いて大幅に遅れる結果となった。したがって、各班の第1回分科会は、昭和52年1月を前後して開催された。本年度が3年間にわたる胎児環境班の一応の区切りの年でもあることを考慮し、班総会を、各分科会の第2回班会議と合同で行う形式をとった。厚生省母子衛生課から近藤健文課長補佐および、中原俊隆主査をむかえ、また評価委員の小川次郎、小林隆、沢崎千秋名誉教授の御出席をいただいた。

場 所 東京ステーションホテル 藤の間

日 時 昭和52年2月19日、午前10時～午後3時

出席者（敬称略）

- 主任研究者（班長） 坂元正一
- 厚生省母子衛生課 近藤健文（課長補佐） 中原俊隆（主査）
- 評価委員 小川次郎（名市大名誉教授） 小林隆（日赤医療センター院長） 沢崎千秋（日大名誉教授）
- 分担研究者（分科会長、幹事） 滝 一郎（九大産婦人科） 鈴木雅洲（東北大産婦人科）  
中山徹也（昭和大産婦人科） 吉野亀三郎（東大医科研ウイルス部）
- 分担研究者（班員） 竹内正七（新潟大産婦人科） 岡本直正（広島大原医研） 高木繁夫（日大産婦人科） 竹村 喬（大阪通信産婦人科） 広井正彦（山形大産婦人科） 水野正彦（東大産婦人科） 鈴木秋悦（慶大産婦人科） 馬場一雄（日大小児科） 竹村晃（阪大産婦人科） 井出正男（武蔵工大電子工学） 竹内久弥（順天堂大産婦人科） 前田一雄（鳥取大産婦人科） 武田佳彦（岡山大産婦人科） 真弓 忠（自治医大予防生態学） 常松之典（帝京大寄生虫学） 木村三生夫（東海大小児科）
- 代理出席 赤間正弘（東北大産婦人科） 越野立夫（日医大産婦人科）
- 事務会計責任者 神保利春 原 量宏 佐藤孝道（以上東大産婦人科）

### 議 事

1. 班長挨拶 坂元正一  
S51年度心身障害研究費補助金胎児環境班の研究組織及び本総会開催の趣旨説明
2. 厚生省挨拶 近藤健文  
研究の進め方、厚生省からの要望事項について説明。今回のプロジェクトについては一応今年度をもって終了するとの報告。
3. 研究報告  
各分科会長が座長をつとめ、それぞれの班の研究内容につき、分担研究者が研究協力者の分もまとめて一括して報告する形式をとった。また、座長がそれぞれの分科会の成果、今後の方向をまとめて報告された。
  - (1) 第2班 異常内分泌環境下卵による心身障害発生の対策に関する研究  
座長 鈴木雅洲
    - ① 経口避妊薬による胎児新生児の心身障害の発現 ○広井正彦 藤本征一郎  
美甘和哉
    - ② 排卵誘発妊娠による心身障害発生の研究 ○水野正彦 鈴木雅洲 豊田 裕

- ③ 高年令妊娠による心身障害発生に関する研究 ○鈴木秋悦 一戸喜兵衛 岩城 章
- ④ 異常内分泌環境下卵による心身障害発生の疫学的研究  
○鈴木雅洲 永井生司 松本清一  
福島 務 他(赤間正弘代理報告)
- (2) 第3班 心身障害防止のための胎児発育遅延に関する研究 座長 中山徹也
- ① 母体環境からみたSFDの診断基準に関する研究  
○中山徹也 東条伸平 荒川公秀
- ② 胎児環境からみたSFDの診断基準に関する研究  
○木川源則 山口竜二 加来道隆  
(中山座長代理報告)
- ③ SFDの発生原因並びに予後に関する研究 ○馬場一雄 五十嵐良雄 堤 紀夫
- (3) 第1班 流早死産の成因とその対策に関する研究 座長 滝 一郎
- ① 流早死産の免疫学的研究 ○竹内正七 磯島晋三 八神喜昭  
倉智敬一
- ② 流早死産の病理学的研究 ○岡本直正 相馬広明 吉田浩介
- ③ 流早死産の内分泌学的研究 ○高木繁夫 飯塚理八
- ④ 流早死産の血液血清学的研究 ○滝 一郎 大河内一雄 久永幸生  
荒木 勤
- ⑤ 早産の疫学的研究 ○竹村 喬 他
- (4) 第4班 心身障害予防のための超音波胎児診断装置の安全基準に関する研究  
座長 坂元正一
- ① 超音波の染色体に及ぼす影響 ○坂元正一 前田一雄 清水哲也
- ② 超音波の胎児母体生理に及ぼす影響 ○竹村 晃 鈴木雅洲 穂垣正暢  
関場 香
- ③ 超音波の開発改良に関する研究 ○井出正男 竹内久弥 諸橋 侃
- ④ 超音波胎児診断による心身障害発生の疫学的調査  
○竹内久弥 前田一雄
- (5) 第5班 心身障害予防のための分娩時胎児管理に関する研究 座長 前田一雄(室岡幹事欠席のため)
- ① latent fetal distress に関する研究 ○室岡 一 神保利春(越野立夫代理報告)
- ② 分娩時の胎児管理に関する研究 ○前田一雄 諸橋 侃 中野仁雄  
成瀬 浩
- ③ fetal distress の対策 ○武田佳彦 森 一郎 高橋 幸  
小川雄之亮
- (6) 第6班 母体ウイルス感染による胎児異常発生予防に関する研究 座長 吉野亀三郎
- ① ヘルペスウイルスに関する研究 ○吉野亀三郎 川名 尚 中尾 享
- ② 肝炎ウイルスに関する研究 ○真弓 忠 財満耕二
- ③ トキソプラズマ感染に関する研究 ○常松之典
- ④ 風疹ウイルスに関する研究 ○木村三生夫 太田原美作男 甲野  
礼作 石井徳蔵 平山宗宏 他

#### 4. 評価委員による評価

小川次郎委員より、①SFDのとらえ方に注文があり、在胎週数別にSFDの成績をとった方がよい、②未熟児発生防止の方法、とくに早産防止法を今後の最重要施策としてほしい、③周生期に関するこの3年間の研究成果をどうやって一般化するかという点も今後検討すべきである、等御指適を頂いた。

小林隆委員より、排卵誘発剤による卵の運命や、超音波の安全性に関する検討が極めて印象深かった事、Perinatalの安全性は一生を決定する問題であり、胎児の生命権の尊重という方向で研究が動いていることは喜ばしいとの感想がのべられた。

沢崎千秋委員からは、昨年より懸案となっていた問題点が、一層細く検討され、それぞれかなり具体化されたことに謝意をのべられ、さらに長期 follow up を徹底的におこなうべきであるとの意見をのべられた。

総じて、各評価委員より、昭和51年度研究成果は合格と判定され、今後、新たな構成による研究の続行を希望する旨の挨拶をいただいた。

5. 厚生省挨拶 近藤健文

昭和52年度の研究班については、本日の研究報告の成果をふまえて、さらに評価委員からのべられた御意見を充分とり入れて、班長と打合せを行って決定したい旨、挨拶があった。

6. 閉会の挨拶 坂元正一

3年間にわたる研究者各位の御努力と御協力に謝意をのべられた。